

PX-UG 幹事会 議事録

2020年7月17日にPFユーザーアソシエーション(PF-UA)のタンパク質結晶構造解析グループ(PX-UG)の幹事会が開催されました。

● **開催日時:** 2020年7月17日(10:00~12:00)

● **参加者**(所属)以下、敬称略

海野(茨城大)、西野(東京理科大)、藤橋(京大)、平野(量子研機構)、鯨井(東大)、松井(北里大)、千田(高エネ研)、松垣(高エネ研)、山田(高エネ研)、引田(高エネ研)

● **議題**

第四回中級者講習会(2020)について日程とプログラムを決定する。

● **日程について**

(今回はビームラインを使った実習(遠隔)を行うため、ビームタイムとの兼ね合いを懸念したが、)

ビームライン・施設側メンバーはいつでも良い。水曜日はビーム強度が一定ではないので、(ユーザーに供する実験ではなく)“捨てビームタイム”として最適なので、水曜日が有力か。

土曜日でないと、Zoomが見れない人がいるかもしれない、という懸念はある。

「産総研は(通常、Zoom使用が制限されているようだが)、申請すれば使えるとのこと。」録画する機能もあるので、水曜日でも良いのではないか。->ビームラインとしては、水曜日が都合良い。

日程に対する結論

11月4日 13時~17時30分

(仮決定)

・会場: Webinerについては、千田にセットアップをお願いする。(500人を目処)

● **プログラムについて**

1. 最初の挨拶 海野

2. アンケート結果の紹介(海野) 10-15分 代表的なものを紹介 ~13時15分

ユーザーからのアンケート結果を踏まえて、分析し、解決策例を提示するのが必

要か。

(アンケート中にあった全自動測定についての不満・不安に対する解決策例として) 分解能は全自動測定では決め打ちだが、今後は、スナップショットをとって自動判断するシステムを入れる予定である。

3. 自動測定の経験談(ユーザーから) 「PF 全自動測定を使ってみて」 ~13時45分

一人10分くらい 学生にはどのように注意してやってもらっているか、など、実際使ってみた様子を話してもらう。等身大のお話をしていただく。

→宮原先生(大阪市大)、藤橋先生(京大)、沼本先生(東京医歯大)に願います。(海野から依頼)

4. 自動測定とリモート測定の紹介 & サンプル準備 (施設側から: 山田) 20分。

~14時5分

- ・ユーザーのサンプル準備の仕方など(リモートと全自動のサンプル準備の仕方は同じ)

- ・リモート測定のイメージができていない方も多いため、(凍結に関する機器(ユニパックなど)の貸し出しサービスがあるということも含めて)どのようなことができるか、等を紹介する。

補足: ユニパックなどの貸し出しは、2週間ですべてなくなる。ユーザー自らで買って準備してほしい。(ユニパックと、キットの貸し出しはできるが、)ハードケースと、ドライシッパーにメンテ費用がかかるため、維持管理が大変である。

- ・リモートと、全自動は、ユーザーの立場からすると感覚が違うので、分けて説明すべき。

休憩

5. 全自動・リモート測定の講習 14時30~17時30分まで

- ・**全自動講習**(構造生物センターの方で適切な人を決める。)

- ✓ 実際にどのように実験が行われるのかを、測定の流れなどを見せて、できることをユーザーがイメージできるようにする。

- ✓ 全自動測定では、ループが長くて画面から外れた結晶を探すことができない。そのため、リモートでできないことも紹介しても良いかもしれない。

休憩

- ・リモート講習の内容（構造生物センターの方で適切な人を決める。）
- ✓ VPN 講座のような形になると思う（VPN とは?いつもの画面をどうやって出す?などを説明する）。
- ✓ どこかの研究室からつないでいる様子を見せ、実演をする（できることがイメージできるようにする）。

6. 終わりの言葉 千田

その後、リモート懇親会を催す。

本来、アンケートの際に収集したポストコロナ時代の研究について議論したかったが、内容が盛り沢山で時間が無いため、リモート懇親会で議論する。

リモート懇親会での飲食物は各自で準備する。

● その他

☆ 2020年の秋のビームタイムの予定について

- リモート実験は PF 側の手間がかかるため、すべての依頼を受けることは不可能。今後、AR でリモートを受けるのはやめる。
（ビームラインの時間をリバイズしたが、）意見があればほしい。（松垣）
→ 特に意見は出なかった。
- 全自動測定で不本意な結果しか得られなかった場合に、リモート測定を行いたい人が出る可能性がある。
→ それでまたリモート測定のシフトを取られると際限がないので、全自動で不本意だったサンプルを、リモートで測定するための予備の時間を設ける予定。
- 6月の全自動とリモートの割合は、2:1(全自動が多い)
- 全自動とリモートのどちらでもいい人は、全自動に寄せた。
- 企業は、基本リモート測定で行っている。
- （上述の松垣が作成した）リバイズ案ですすめるのが良いのではないかと結論。

☆ 夏休みのSLS

- ビームタイムをたくさん取れそう。結晶をたくさん作って欲しい。
- 前期の方がスループットが良いので、前期に間に合うように結晶の準備をお願いする。
- 全自動測定と、マニュアル測定の半々くらいで行われる予定。

➤ SLS についての資料が欲しい -> 案内文書にリンクを載せる。